語林類葉

か

五

ホ 2
502
5

門 加2
鶯 ナ02
巻 ナ

帝國圖書館藏

語林類葉巻之五

加行

かの部

二言

かう 鳥声

枕冊子

続詞花

○袖中八十三 鳥のさうを(囀)ゆゑをいふ

〃○

清多濱臣輯

かく　楽

雪井ゆくめる　あるかく白柱　○第七　音楽　楽屋い中

鳴にしるる

かぢ　駕籠

嚴嶋詣記　雲井のほとりうるはしてゆきたうつせ

るる○

林葉集一　梅花意同

雲ゐはおちにきつぬひるん　うさとも鳴る梅のるうち

カサい笠ニカサ、トイフ方言ノアオ　○物ノカ

キフヨイヒヨセタルヤウナリ　サノカ

ホイスクタイトイ

フカサト同シキカ　○宇川保　花同

○同同　おてうきて　うき多くいまる

考悲後百　親隆

多ちよに　花ときぬまてを月の波の糸うきぬ

○

かせ　風

山家下　廿二　風ふる人を

同同風ふるてきて　さ多光の風ふる　又ふんことを　おもしろき　ちに　ひ元

○同下　廿八　○業花　同　宴　十八　沸うせ　ゆうて　○同　同　四十九

あやしうかせおかしうちみて ○榮花 松山 廿六 又なりかせ
ねよさゆくのおほんきくり ○狭衣二上 風のおかしう侍り
に侍るみや、ささえんちまいりて ○清慎公集 ちうき
やうやいて しき ちぬつきんちはるをここ ○竹取 風いとお
ろき人みてなうかいとふくまし かりさにかさいの目みい吹き
をふなり川つけたるやうし ○源 宿木 すうせたにおもし
すせたまはれることもおそせはうて
大和物語 きう板のいと風にゆんあひまいてよろめひける袮ともちる風のふけいさ侍る又わたくり
コレハ中風ノ編 枯ノ病ヲ云カ
夫木廿八 家集雑哥中 西行上人 うまれれ家風ととるらふきのかいおきふしとめくんはそふて

がね 料

后がね
帝がね
聟がね
大臣がね
博士がね
めうがね
きさきがね
法親王がね

榮花 九 さはくのなりさかき きさきがねとおほしかまえたるを ○同 同十五 きさきがねとみえしきみにおほしまへし ○同 廿二 そえてぬ夏 ○同 四十四 円宴 みこがね ○源 少女 うしふさいたひとのたかぬきさきがねさえ ○伊物 十段 むこがね ○榮花 とのしつく なふあはのたはかね みて おとこは ○尚歯會記 そのせうがね博士のつ沓をそろか ○榮花 十八 浅緑 又このとうがね ○宇川保 藤同 おくさきの きみのがねみやいるなる コノキミハ帝ヲイフ ○増鏡 同まくさも法

親王うゑ給ふ○字川保あそん
つゆはらひ分あいあるとも
てあるべしと○

かて菜

源紅梅　こうこうふえふりうたはまゐりてうたう○弘
安源氏論義ハ云天暦の比の記云宴會の時流れ
入無のあるうたうをうたふ同日の小一条
太ほ郎に諸々うたをうたふ○竹取あるもと
うたをうたふ　注可考○新猿楽記云早職事ゝ皮笛

○宣旨

諸々ゑひうたをうたふ唱ふ○ふう多もてうたうをうたふ

○

蓁椒　吳茱萸　並見延喜典薬

○男の日の日記

かひ

和名抄卵　和名加比古

字川保あそん
うゑのうらに春ふかくなるかのよい
源氏ものはな程
もれ一巣にうくいすうのうえ春いかるる人のあたまをん
拾遺抄名　いなうゑのみも
多のよい所をうるかるとていぬのうるいとをうん

大和物語

後撰雑一　流人百首

○遊糸日記

○新古春　赤人

自ノ表

清輔集

上ロ八

拾遺雑春　長能

○今昔　卅一　五

○愚管抄　円太臣　伊周

○栞子　和

○榛子　和

ナシ

拾遺貞　外上

○千載　物名

○源　玉

○催馬楽

○新六　信実

○同　哀四　詞書

○唐草ノ蔵繪ノ唐櫛笥ノ具ヲ立

頼政集
人しれぬ谷の苔にむする かうあつまかい つにそむきい
○源 玉かづら 松の葉種の下しめる うくきをとこもち
まるもいとか酒めきなみまえ○

三言

がいき 咳気
隆信集恋六 せき 七部 きこゆる女可考合○ 栄花 ちう
うらの うらみし こいきれしいふ事をはさとみて○

かうじ 勘事○勘当

栄花 うちく乏つほ たうかきこともかいうんなるあかなく
きゆらしきにさつそ○拾遺雑恋 きなしいうんしかし
てきき○狭衣一 下一ウ さいうんなるにさつそなくなりまし
○源 真木柱 ちそしこうしちなふつきみやあるん○同 柏木
山かうしおうさましなうんれん○山家下 四十五 うんなう○竹 四ウ
取うんなうあらじとて酒かりつるよね○枕冊子
かうしゆたきまくて

かぐら 神楽
玉かつら十 かぐらハ昇ハい神あそびとかいやるさまいハ異

ふをも古今集ゆいうみおそをもろさまをす神
楽と書るもふるくいうみあそをとそ訓へきかとふ名
いうれるをーあていのほくらうをそ絶りん六帖の
題ゆいかくらとうきり○神楽の音持し○神遊考に
詠そ○

かけさ　懸篭

源氏うの手
ふをろをいををてかけいをけをかをぬうけちをう
○枕　冊子　九十九　ふをのうけさの根○美花　をり花　五十一
拾遺恋一　ちみをろに
君をのみをひうけさの玉けあけをりとにをゆゆ日いかー

金葉雑下　ちみをろに
玉けうけをにちもををあかうちをををを
○

うけて

拾遺愚　ちみをろに
をけうけてをかんをもをそひーうをおそくかくらし
新勅　鎌倉右大臣
新六　うて　信実
をうけて葉さきいろのーを楓をもあ所をいをくらん
続古今　中納言為氏
風深ー河風のをのをろみたをを社うけてのをうををを集

かげめ　淺妻

挾衣一（下十九オ）　[illegible]

人[illegible]い　○同三上（廿六）　[illegible]

て[illegible]て○

かざし　挿頭　○六帖髢

花鳥餘情云石清水臨時祭使ニハ藤舞人ニハ

櫻陪從ニハ山吹○永久百首石清水臨時祭哥

弁月詣雜上茅ヲ流[illegible]○江帯次二孟旬抄云

尤挿頭呉竹古歌冬

五代雜二　揚貴妃を　光頼

[illegible]

○

某（十二）　後成々集

[illegible]

○[illegible]

○同二（下十六ウ）　[illegible]

氷童表白　裏白無文　○挾衣三（中卅三オ）　法院のうもの[illegible]

[illegible]　○源　若菜下　[illegible]

今昔世一聞麦童ノ薄物ノ袖

[illegible]

松[illegible]

[illegible]

氷[illegible]

柏野[illegible]

[illegible]

[illegible]

いそとうえ
玉うえ

かーえ　古語拾遺皆曰加毛波

仁徳紀御綱葉　葉此云箇始婆

万代記一　お参議宣経
[illegible]

壬二集
[illegible]

木トナシ
テヨメリ

堀百初意後形
[illegible]

千意一　同

拾遺愚草上
[illegible]

万代々々　顕昭
[illegible]

同　神祇　兼和大嘗會悠紀方美濃国風俗歌
[illegible]

コレハ　○北史倭国傳曰俗無盤俎藉以槲葉○
木ナリ

仁徳紀三十年　通証　○神武紀　通証　八ノ　○特統
紀三年　通証　廿九丁

かーえ　斤身

万代秋上　後徳大寺左大臣
[illegible]

○

かーいえ　都土産にえ[illegible]載

万代集上 後拾遺 あさこの原あまをとめらいふきをるく

○長明無名抄 万葉 をとこ山すきはあるかの蕨 吉今集四 ちゝ人をしら

千代 おゝ雪をとをゝこゝろ行てゆきをとはの浦

○

かどで 門出

土佐日記

俊信集下四才

かゝ 峡嶺

万代集 遠山時雨 源仲正 風をゝ村雨をゝ遠山の山のうゝ紅葉をゝ

○

加布施 カフセ

散木雑上

かゝ 庚申ノ音便

公任集 角つゝ日かゝ 年をゝ

○二条大皇太后宮大貳集うゝの部あきちかさ

くのみまて哀

かゝ間　萱間○板間といふに同格

万代哀一　匡房　若草もえ初のゝ原の春雨ゝとつけてのこるぬゝそてゝ申

○

四言

かいゝ　嬰兒産声

若元　月宴　ゼ五　みさうういゝしなきゝ○字治保　印さうの後下　尾本　内上

ちゝのゝきゝゝにうゝゝゝ乃○今昔ゼ七　四十三　赤兒ノ

音ニテイカハイト天ナリ　産ム子ナリ○

開帳（カイテウ）

中原康富記云文安元年十月二日木尾春日大

明神御影御帳被開之南都大乗院被所望申被

開之此次（ツイテ）所望之族上下道俗男女拝見無子細

之由兼有其聞之間奉伴清大外史并藏氷等今

日参之令拝見了其儀有開帳寺家之衆有講論

之儀式其後南都衆有法楽之後大乗院殿有御

拜見御退出之後諸人群集頗狼藉之躰也柵尾
本堂ヨリ遥ニ東ニ倚テ有檜皮葺堂一宇南向也
春日御影西向ニ奉懸之繪像任吉御影彼是両
鋪也殊勝云云○二水記永正十八年二月八日
早旦詣木屋菜師堂鳩後去月開帳也聖德太子
御作云云古物御面貌不惜八百年許無開帳云云
○

関白

吳異記下世条受遺言造彼十一面觀音像因開白

供養已訖今居能応寺之塔本也○

戒保

万代雜二僧都遍被戒保をあつへて行ふを返
つ云云 ある大僧正物語
家の世の人をきかのいきほひにかいつきしつへき
続後拾雜中

○

かうて 鑒 カンガミうし

壬二中
多の矢らをいのる多いの祈ことを神に かうて行そうてん

○

かき板 垣板乃ゑ

枕冊子 九ノ巻 人めつゝみつゝしきうの こうきゐ

かけぐん 懸盤

源 若菜 院の御前に淺香のうけぐん○枕冊子 公卿

つゝしきうけん○源 若菜下 をかしきうけんれ

つきて○枕冊子 廿 海師のほぬほにに

うけんをもて行ゆうはあんをのほるて

かーをホ

八雲

拾遺 雜賀 中納言敦忠 行ゆる時に色の色て

いもちきりて行ゆる事のやうにきもえ行ゆるこえ 古近

色もまさしく多の矢ーをとこ かーをきめをすてをに畏ふ

○枕冊子 三八オ かーをきいとをかーをとの神の御

くしいとかーをの多澤のうをけをれをいるんもを

ゐーー○赤染集一 廿五

万代集三　[illegible]

[illegible]

返　良峯宗貞

[illegible]

後拾雑二　返歌

[illegible]

○川社

[illegible]

○金枝十七　[illegible]

[illegible]

続古集二

○大和物語

かたてこる　今ヲ[illegible]

[illegible]

壬二集中

[illegible]

又姫　即後の彩

[illegible]

○隆信集賀　中納言親宗をさかきのあきをめに

車引いまて行にいりをつみてそのつきうゑにうきて

行そ

[illegible]

○

風呂屋

林巣四

[illegible]

かんなくし　斤飼

拾遺恋四

あふことのうゝひしまゝにみちのくのをもはるかなる

○うけろゝ長谷　うけろの山にたてるうの花

新六　うの花

おくのほそ道の野ゝの馬のさゝるつけこまゝあるゝ

駒ヶ

支木

かゝいと

神中十二十三　ゝろいの雨の名をうゝとよみ言に云ふ

○ゝの名称上　ゝか君い見えてゝいくゝ降りひて

かゝいとうちほとてゝるまふ○遊糸日記　ゝ

ゝる人うゝいとゝゝ

ゝるほとに○源氏物語　かゝ言ち

ゝいいとゝいくゝうて　明石姫君ヲ云

かゝゝ

今物語　東山のうゝをみあるゝに人ゝつけうゝあて

ゝうゝ○

かゝゝ

保憲女集

ゝるゝゝ

○

かしは

続詞達家　大内のおほうきの中ふきしなるをよみて　淋賢法師

師のそうけふ来とつけゝる　心巴法師

たえきいさ緑てうらみ積りけまし　かしはとも　云もありけれ

新六　たかしき　光俊

立そうて先そてうせしかしはの影のたちそそ立ゆましくされ

同　かしはの　信実

世にはたえぬ大内山のかしはにふきかゝるの精なえる

〇拾葉和哥集引门裡指南云結政所陽明门外近衛北〇公事根源外記史かしはて事をおこなふ〇続後拾雑中〇万代雑二外記廳結政座

みちなめくしら一本かに積るそと西川書ことの次ゐて

てらしる　中原師光

前への院の卯の高くしらさめかしはにおほゆる

〇江次第十八官結政結請卯ナトト云コアリ弁官ハ納言ナトト寄テ官符申文ナトト語否取傳ヘ内覧ナトト催ス処也〇

かしはを　オホクハイマタ成長セサルヲ云

藻塩　うらやくまつほおもしみのとくかしはうらもいうたてやこゑ

かしはにわかぬ霜もおそしほ涼とめさ〇

[illegible]

拾遺雑賀　[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

○枕草子　[illegible]

[illegible]

[illegible]

十六夜日記

[illegible]

○

[illegible]　廿々

千載三　院御製

[illegible]

拾遺賀　[illegible]

君[illegible]

後撰賀三　[illegible]

大和

同

同　[illegible]

[illegible]

新続古歌　同

○

かげきめ　潛女

和名抄潛女カツキメ

万代雜三　人九　夕されいかちかとしらしの川きよめもきつるかに生る海人

○家集可考

かけをは

古老口實傳云一玉垣柱瑞垣板諸殿堅魚木踏越

西知々に有悋者也能々可存禁法者也諸尊形躰表也○

かどちの　門近

源　元散星　このとちかに降ぬまて○

かと松　門松

拾遺貞節上　門ちかに千とのきちかくふる人雪きえぬ君のあたりの

山家集上　門さしの色のみる小松にうまれてさしてとしをへにけり

支木

○林集六　四月三日人のもとに四うのうへ　中門の

松をとりてしてをくるを一にしるしをしてうえ

きにあへる山門松をかきのくるをもて千代ひとうもに入める

拾玉四八ウ

堀百除夜　彩季

門雪をいとなみそのほとにあけくれかめん

小侍従集　もと

うちみんといひしのみまいあるらいいそて定門の松をうえ侍

○世諺問答竹ヲハタルアリ　哥ニハ遺

遺院ノヨマレタルニ竹ヲヨメリ

かたいも　皮熟瓦。今俗にちつぽん糞といふ物なり

常盤媛物語　ちうさき母みしりはてゝ

てらくされる○

かたしら　蚊柱

拾遺愚草上

草ふかき河屋の蚊をしらぬいとふかをたてそしる

○

かはゝ　河屋○難波地名

隆信集　人々まとてうえ侍りしの方（おもに）ほうも

をしに○

ひゝ　ひゝ

小馬命婦集　うゝ　みゝ　○

かへる

源 須ヲ あるうめきけうらうのもとに○竹取 親なち
のうへうをいきうう角に○大和物語 掌にれん さふ
うらうらる○後撰雑三 法皇のうへ見えたまひてを後
い時おとろへて○

かはへて 今も俗言にいふかあれ
源 首 のかへて むのことにれうらうとき見えれて

かはへん 構

かみ— 上下

古本今昔

○布衣記 永仁三年 若菫中間跡ニ上下ヲ着召
具○縣居本首書云上下ハ即素襖ナリ○

かみのこ 紙香

源 夢 あを—ゆうの清みなて紙の香れと保のうれ

第九 荒山 なとふみはうとくその中うはへんとうう○ 天下
六 ヲ取ニ結構アリトイヒサワリナリ

○宝物集

ゆをしるなり

かみのと

高ひの侍の日記 えいきちく人々我をつくして見人たか

るさかしなるみのとみて清遊あり○

かんなち

神館○神事あらはれて而之○賀茂の社の後に神館の
跡あきらかしかんなちといへり 契説

後拾遺第

千載雑上

かしうき 久老云かしはかしはの神事にかはる同しころ細工の物に見ゆ
うしの詞一つなり

宝物集

散木集六 夏のくらはれは笠きんとしけるに馬のおとろきはれは死ける
さしうれ身をかしうきのあやしきにふれたる馬あさくおとろかれぬる

○中務内侍日記 清馬をくくましたし 桐 此清馬はかうき
おとろきうしゆんとすせんいしくさうしなして衆人をおとろき
この身さうせんとかよみはかなしともそてなく海のきよ
につねは清うるこうき おとろきやきまくらんとさしや
ありしも ミミ 今モ馬ヲタメスニカラカサヲ目ノ前ニヒラキラトスルヿアル
ナリ○枕草紙 人の家につきしきもの かしうき○同十ナウ
かしうきとさしなるに風のいたく吹て気はき海に雪とふ

記唐笠造花藤巻之上手也○東鑑此六巻一巻両
之間於唐笠下勤行之 今云長柄傘成へシ

新六 ○ 千載 物名 標注 ○ 委標注○

現存六帖 ○ 山 家隆祐

○盛衰記 名帝相撲条

丈木人 清輔

假殿

中務日侍日記 社

亀子

西宮記献鴨子云々　河海 [illegible]

うつほ あて宮を筆おもひつけてかりのこにかきつけてやる
あるのうちにかへるかりのこは見ゆる宮みてこくはかれん

○遊糸日記康保四年条　三月つこもりかたにかりの

このみゆるを云々　○枕冊子　うつくしきもの あてなるもの　かりのこ　○源

氏真木柱　かりのこのいとおほかるを御らんして云々

同 [illegible]まて推にしあらぬかりのこをいかなる方にうへいきうへき

同 橋姫 うち捨てゝつかひさりにし水鳥のかりのこのよにたちおくれけん

新六 光俊 [illegible]かりのこのおなしすにてやいつかいるらん

○万二 鳥垣立飼之雁乃見　○冠辞考 天飛ヤノ条

○古事記仁徳紀 かりのこ

文木十七

かるめる　上下○甲乙

體源抄 かるめるといふ字みゆる大神景範家記目録之

上下と書きうちゆのせて人もしらぬ事也可秘蔵之由

ことみえたり○

かいろ

野守鏡序 かしこにをみ[illegible]つやこゑいろに 此色ハワ

同 ワイロトイフ色ニ同シク声ノツヤ也○

五言

かきあつめ　筆ノ調子ヲ合スル也

添　女ヤ　うきあつめれば　[illegible]　まひて○

かくしさつて　万代神祇　[illegible]

かくしたる　[illegible]　計部

○

かくさつて　隠言○　[illegible]　今ハうけたる

長明無名上　一日のぶかんしをかくす言れ

[illegible]　[illegible]を○

かけつる　崕造

野守鏡序　山[illegible]るくうけつるうほへ○中務日侍日記

うけつるを[illegible]　[illegible]

○

かさたるの

拾玉一　早苗

小山田のをし[illegible]

[illegible]

○

かりこいなる

山家下

うきなる　をてに波のうるふ又いれうとあるとしるに

○支木　卅六　わるまた

かるあるー　昴田（カタアラシ）○今万荒の意ゆえ

今義解

拾玉　場の影早苗

うゑしとる　のうるのあるしかるとしるに

新六

かるもんせん　五先

続世継　あるうる　ものの多い田暮ゆうて　うさう早人みてて

ちくはるん○

かるもんせん　今之細結ゆ○堅結

新古　後頼

あーけやの　もりるとつもの　ちもをもんるうもちくるう

コしいた

後拾　結十り

ちるとともにいつかさくはまり　あとのちもをもゆるちるの　之夏もし

続後拾　後鳥羽院

万代集二　墨俣

[illegible]

飛雪日集

[illegible]

かたるさう　元居行

拾遺集一　兼盛

[illegible]

かたるこうき　河簧　舞

[illegible]

長秋集

川をうき　[illegible]

[illegible]

[illegible]

玉集雑豊喜令草松

川をかき　[illegible]

○兼澄集ニ地名アリ別也　考合スヘシ

かくしこ　新六　うえ衣

[illegible]

○支木　衣同　○支木　[illegible]　三句[illegible]

○カいヒシリ　破戒肉食ノ俗ヲイフカ盛裏記ニヒシリ柄ノ刀トイフフミユタルヲ或人ノ説ニヒシリいハヲイフカノ柄ニ鮫皮ヲカクサルヲヒシリ柄ノ刀トイフ也俗ハ美類ヲ用ヒサル心也トイヘリサラハカいヒシリトハいノウラニテ破戒肉食ノ俗ヲイフカ○後

按前考ハ非也ケリ愚管抄云中納言義懐左中
弁惟成ハ入道シテ花山ヲ奉ラセ出家シテ廿二
人ニハ出家ノ時ノ御道ヲ入テ仏ニ成リ義懐ハ飯室ノ
安乗寺ノ僧ニ成リ惟成ハ叡山ノ麓ノ[illegible]ニ
[illegible]テ[illegible]ケリ[illegible]ケリ○又
後按紀畧一条帝寛弘二年五月三日庚戌今日
修行聖人行円供養建立一条堂仲聖人不論寒
熱着鹿皮号之皮聖人○同寛仁二年三月十六
日是日皮聖号行円於建立寺号行願寺始修六
万九千三百餘灯事充法華経文字○和名抄水

瓶　肉果経云善恵仙人被鹿皮執水瓶

かへいぞく　加陪従

隆信集下四位〳〵て後除時ぞのうへいしゝた○同　四十九
○花鳥餘情云陪従をいふ人〳〵ゝ十二人四位五位六位
各四人○源　若菜下　くゝてゝあるこゝゝ迎侍つゝさの
名あるきかゝりをゝ[illegible]る○加陪従ゝて諸家の諸大
夫ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ事ゝ○

かみこうぶり　紙冠

[illegible]　大中臣能宣朝臣

○今昔十九　三条河原ニ法師陰陽師ノ百ヲ紙冠ヨシテ祓ヲス　本朝文粋可考クヽニタリ　○紫集　やそひの一四

かゝる[illegible]に出る[illegible]に[illegible]る事に法師のこゝろをとゝ[illegible]

てゝ[illegible]

[illegible]の神のゝ[illegible]

○

かみさりき　万代集　藤原師尹

神さりきゝ[illegible]　同神祇

[illegible]集　二月中

[illegible]布留の社の神さりにきとて[illegible]

○

六言

つきゝつゝ[illegible]　尚歯会記　清輔

つゝのゝ[illegible]

かけ一車　懸車

尚歯会記　李経

[illegible]

かうさいとそん

言塵集序　万葉の[illegible]

の時代も[illegible]

枕詞ヲイヘリ

かさね詞

清少集

[illegible]

新勅撰三

[illegible]

○馬内侍集可考○枕冊子　四十三段　草の[illegible]

[illegible]

[illegible]

○源若菜下　[illegible]

[illegible]

已而不知其然謂之道　林注云以下句已字粘

上句已字此是華嚴遊戯作之處○

かさねけり

散木集六　聖衆倶会楽

[illegible]

出府一の考　西行法師

[illegible]

紫式部集

あてにあれうすしけれども侍のうはそくいうそくと

○詞解一 四十六オ 俗言オウレオホイ物体ナイ○

からすのあ

業氣 家心 四十一 うすすすあ一海りんと○

かぶのさし

後拾遺集 ゐる口親王の後合一行るこう紙のさし

にうき行るる○

かぶをつくる

海人藻故云ル彼御代鳥羽院 已前い男眉のもとぬ

き鬚をそそそ金をつくること一切無之及末代毎度矯

飾の至こ○

かたるの松 木竹ミ尾松い草也トアリ

白氏文集驪山高翠花不来歳月久墻有衣兮尾

有松

林葉集一 故御柳

今昔廿四 四十六 絵図

ふるきよのかたるの松いとさえあてそもの高きこのうきにけり

ふるい尾あ雲いしをにけりるのーつすき祝今のうえ

高野日記

続古事四　多武峯　後鑒

多武峯ニテヨミ

夕マヘルハイカヽ

玉藻雑三　山家　後拾遺

山陰やのきくらも苔のむすまで　人ぞ待てふるのうゑ木風そふく

○

かゝる　驗々數

中務日記　うゑ

業光　うゑ

○

かゝる　報恩

宇治保　義京君　うゑ

もゝんとて○源　玉　うゑ　三条　うゑ

うゑ　いつゝ　うゑ

○

かゝの　亀益ト

神中七　師時　日ニ

思ひ　うゑ　うゑ

○

かりそめふし　苟且臥

千載四　雜三
あしのつのかりそめふしいまの世のちぎりとなるまでに

後撰雜四　藤原成国
秋の田のうねめふしもそなれこそ袖を枕の露ぞ

六帖

七言

かりそめ　かりそめ

保憲女集
夢ぞ思ふ春のかりそめふしうらもなかなかこの人のまくら

○

かりそめ　かりそめ

庭のうへ　このうへ　ほかなる　ほかなるを

かりそめの神

忘憂日記　うるめきうるうるの神に

かりを作る

長明無名抄　つねいうことを作る人とそれいふ

演奏四　つひにかりを作る人いてきぬ

此一四　古ニモ不恥　今モ扇ヲ並ル者元ニ

○今昔

○

同同廿四 其所ニ座主肩ヲ並ル人无カリケルニ

○

かみくおちせ

散木雑上 大殿にてうたあそびしけるにすさませ給ひし

ほかに師のきこえありましたこと絶る

君か代を神いのりたる [illegible] の松にはなびきて

○同 人のもとに [illegible] ひとつのにほひ

いてゝ待りけるにと絶る

うきしさのあはれの又 [illegible]

○

かくらやなきて

拾遺雑下 吹かぜの梅をとりて 仲文

うぐひすの声は [illegible]

室積集宴下 難波のをしへにかゝる梅 [illegible]

名におへるあけの衣は [illegible]

○同物語にかゝる梅につけて [illegible]

百十 かゝる梅は 梅清画之

心縁のこゝの [illegible] あり [illegible] の冠

○李吟云一説河柳一説津国冠里 [illegible]

○中川保菜宴 [illegible] 書一ノ考○

八言

かきほせのあほそ　雑薫物

庭のをしへ　かきほせのあほいみらてうけてくらん

つゝとつゝとをあて一ほせ○

かしくいふ詞

境境　あらい川　白うねの　をせたにあきの　をしかして○

かしくいふもの

宇川保　美原君　をきみちにも　ねつゝうきをを

○湊松物語一　ほきくちかしまて○　愚管抄三　記して

あてこうさまをあるみてはるく○　今昔廿四条　此加持し

現ハカシメルル人々ヨリ世ノ人皆貴ヒケリ○

小右記云大夫名隆家訓読云伊部平仇加也加

寸○木居氏云俗ニキコユサヤカストイフヘ

キ也○ヒトツノ助辞ナルヘシモヤスヲモヤ

カスオヤヤスヲオヤカスチラスヲチラカス猶

多シ○袖中一九オ　見ること

山家下　七十一

山さとのあらしの風に　風をたれ　いかにをしの　をとをのあとこの事

○新六　ふち　光俊　ほとゝぎす

拾玉集本
たちとまらぬ月のうきあぐらゐ　埋木　たのむの松　多くあるのれるゝ

○今昔廿七（廿九）若君ヲ遊ハカシ奉ツル程ニ○

同廿八（三）幕ヲ引テハカシタリ○宇川保　国課上

ちのくるゝあほにゆるすにつひさきてそいはゝるとめとて○

源　若紫　えもいはぬかしつるきいうてゆるを○同　明石

かゝれうゝ月をたゝうつるあやとんほそう○

かほのおき所

庭のをゝ　ほうほのあき雨しつたに○

かんぎゝもうゝ

源　朝顔　うゝもの　こひきはあるゝ人のおもうけにふ

とちほえて○弄　うつるのたはゝ○

九言

かゝらたにうゝ　大まナうハトイフ言トキコユ

業光　うゝのぶ　うらたにかゝくゝ　きい一天の君に

うそちえゝ　ほうちも　今モヒヨメキガカタマラヌ

ベシ　○宇川保　能国　ちうらほき　トイフ同意　顔　經カモヒア

ちうゝ　ちうゝ　ちうゝ　ちうゝ　いとあほき

みて　くるもさくらかと　コレモ　ヒ　ヤイヘリ　○　同　そ　ほ

うらぶるもかりらおほきかるるほくらゐ　ぞ　れ

ん

笑沖名所か集引岩神

岩神を　ゐ　ひ　ゐ　ゐ　世　ゆ　に　か　ら　ゐ　て　ま　て　つ　ま　ま

○清輔集に　名　ま　の　考　○

十言

かりきつるの大口

くもねの花　秋夏三　清長

十一言

かるるかりの　ゐ　ま　ま

くもねの花　本間太郎　景　○　増鏡　老恨

かりの羽に　か　ま　つ　ま

山家集上　つ　ま　て　ま　ま　か　ま　ゐ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

永中四年　百　そ

竟宴　哥

かきくもる　ま　に　も　花　さ

千午陀羅尼経云此大神咒咒乾枯樹尚得生枝
柯葉華何況有識衆生身有病患治之不差者必
無是處

千載教 前大納言時忠
ふるのゝしきちりぬるいまたあらしこうまたにしかも花を咲かる
続詞花 受延法師
雪ふれいちりぬるのゝ初梅はつもるまにも花咲にけり

山家集下
山ゑいえるこゝにさうゐこうれるまさに花咲あらん

同下 千午経三首
花ほてい身に仏さうゝ枯たるえさしはきホの根をかゝしえ

○普門集六 苦絃奇業
いつまの仏の祈ひとり千ゝの
ちつゐをあのもゝきかまるる草ホもあらはにたゝあさ
きみのるとまきるあまてんまこ 今様也○